

# 教育研究業績書

2023年10月23日

所属：英語キャリア・コミュニケーション学科

資格：教授

氏名：山根 明敏

研究分野	研究内容のキーワード
アメリカ文学	Raymond Carver, Henry James, short stories
学位	最終学歴
文学士 文学修士 博士(文学)	関西大学大学院 文学研究科 英文学専攻 博士課程 中退

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. リーディング	2021年4月8日現在 2015年04月01日～現在 2015年04月2015年08月 2013年4月～現在	英文を、前から後ろへと読み下す、ネイティブ・スピーカーの発想をもとに授業を展開している。 Reading, 文学作品演習において、スラッシュ・リーディングを実践している。 短編小説を読み終わるとコメントを提出させ、それを授業で読み上げることによって学生の興味関心を喚起する試みを行った。 MFWIとの共同プロジェクトであるグラマー・プロジェクトの成果に基づき、英文の構造をわかりやすく説明する授業を展開している。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. Mukogawa English Grammar	2019年03月	グラマー・プロジェクトの成果である教科書を一部改定した。
2. Mukogawa English Grammar	2013年4月	MFWIとの共同プロジェクトであるグラマープロジェクトの成果をもとに、わかりやすく記述された文法書。
3. Mukogawa English Reader	2012年04月	様々な種類の英文を読み、正確に速読する能力を養成することを旨とする教材である。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 高等学校専修免許（英語）	1989年3月31日～現在	
2. 高等学校1種免許（英語）	1986年3月31日～現在	
3. 中学校1種免許（英語）	1986年03月31日～現在	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. テキスト探究の軌跡	単	2021年6月1日	大阪教育図書	Henry James, Raymond Carver, 村上春樹のテキストを、様々なアプローチにより詳細に分析したもの。これまでの研究の集大成である。(pp.1-227)
2. 伊藤孝治先生古希記念論文集	共	2007年03月	大阪教育図書株式会社	阪上健一、石原田正廣、廣岡昌子、服部精文、玉木雄三、森田晃司、今村隆、荒木直樹、松浦宏之、藤木隆義、渡辺征児、津中フサエ、西山徹、清水伊都代、松村敏彦、河野哲二、大久保文明、吉田良夫、山根明敏、多胡正紀他 Raymond Carverの短編小説”Chef’s House”を詳細に分析し、アルコール依存症の男性同士の絆という観点から新解釈を提示している。(p.p.463-472)
3. 楽しく読むアメリカ文学	共	2005年03月	大阪教育図書	高橋美帆、井上久夫、中村善雄、山根明敏、西垣有夏、古木圭子、井上治、村尾純子、栗山裕也、立木秀洋、神野尚、橋本賢二、荘中孝之、井上稔浩、石原敏子、Yoshiji Hirose, Haruk

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
4. 知の諸相－赤井養光・坂本悠貴雄両先生古稀記念論文集－	共	1999年03月	大阪教育図書	Raymond Carverの『大聖堂』に取められた短編小説『羽根』と『シェフの家』をクイア・リーディングという新たな切り口で論じたものである。従来の批評に欠落していた男性同士の熱烈な友情に焦点を絞り、新たな解釈を打ち出している。(p.p.457-470) 赤松勝也・秋元秀紀・乾昌明・井上治・井上信行・植村幸生・江澤義典・江畑實・沖原佐枝・桂文子・要弘・上山泰・貴志雅之・小林登志生・米家哲郎・坂本悠貴雄・佐藤東洋輝・澤崎由起子・清水伊津代・清水哲明・神野尚・鈴木俊・関口敬二・高橋美帆・多田敏男・立本秀洋・堂垣正博・中井吉一・中澤正任・中山喜代市・中山喜満・西山正容・西山徹・波能満・橋本賢二・林宅男・林礼子・広瀬佳司・藤井収・藤田佳信・牧野恵子・町田哲司・向井清・森田晃司・森戸由久・山口和夫・山根明敏・横川砂和子・横田勝弘・李春喜・渡部悦子・和田葉子
5. 英米文学を学ぶよるこび：多田敏男先生古稀記念論文集	共	1995年05月	大阪教育図書	Henry Jamesの中編小説「アスパンの恋文」における、語り手、語り手の友人ジョン・カムナー、語り手の崇拜するアメリカの架空の詩人、ジェフリー・アスパンとの相互関係という、新たな側面から作品を論じたもの。特に、これまでは取り上げられることの少なかった、ジョン・カムナーが語り手に与える影響について、欲望の模倣という新たな解釈を呈示している。担当 (pp.25-41) 出原 博明・竹下 栄子・山根 明敏・水野 尚之・李 春喜・増田 英夫・多田 敏男・貴志 雅之・中山 喜代市・橋本 賢二・中山 喜満・今村 嘉之・関口 敬二・Morris J. Augustine・吉田 良・藤田 佳信・西山 徹・五幣 久恵・森本 俊男・樋口 欣三・森田 晃司・広瀬 佳司・高倉 正行・上山 泰・越川 正三・上村 哲彦・奥村 透・吉田 良夫・井上 久夫・郷路 行生・荒木 倫子・今村 隆・井上 行・高橋 美帆・Peter Makin・坂本 悠貴雄 Henry Jamesの二つの短編小説、「デージー・ミラー」と「ジュリア・ブライド」のヒロインの描かれ方を比較したものである。デージー・ミラーは焦点であるウインターボーンのイメージに、とらわれた存在とされている。それに対し、ジュリア・ブライドは自分を解釈する父権制の存在を意識しつつ、自らの物語を創造しようとするが、結局は男性の物語の中に閉じ込められざるをえない。(pp.40-53)
<b>2 学位論文</b>				
1. 文学理論を用いた精読の試み－Henry JamesとRaymond Carverを中心に（博士論文）	単	2020年03月20日	武庫川女子大学大学院文学研究科	フェミニズム、クイア理論等の文学理論を踏まえた上で、Henry James、Raymond Carver、村上春樹の作品を詳細に分析した。
2. Henry James『使者たち』研究（修士論文）	単	1989年01月	早稲田大学大学院文学研究科	Henry Jamesの後期三部作の一つである『使者たち』の副次的な登場人物であるマライア・ゴストリーに注目し、この作品における彼女の果たす重要性を、小説の語り手、宿命の女、二人のマリアといった多方面からのアプローチによって詳細に分析した。
<b>3 学術論文</b>				
1. <i>The Great Gatsby</i> の二篇のグラフィック・コミックを読む（査読あり）	単	2023年3月20日	Mukogawa Literary Review 60号	F. S. Fitzgeraldの代表作の一つである <i>The Great Gatsby</i> の最新の二篇のグラフィック・ノベルを題材に、原作との比較をアダプテーションの観点から行ったものである。
2. <i>The Great Gatsby</i> を読む－謎の人物George Wilson(査読あり)	単	2022年3月19日	Mukogawa Literary Review 59号	この小説の一見目立たない脇役であり、かつGatsby殺しという重大な行為を行うGeorge Wilsonの影の部分に焦点をあて分析した。
3. 村上春樹『一人称単数』と私小説との距離－「クリーム」「ウィズ・ザ・ピートルズ」「ヤクルト・スワローズ詩	単	2021年3月20日	Mukogawa Literary Review No.58(武庫川女子大学英文学会)	村上春樹の短編集『一人称単数』(2020)の中から4編の作品を選び、John Updikeとの間テクスト性に言及しつつ、日本近代文学の私小説との距離を論じた。(pp.1- 14)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
集「一人称単数」を読む(査読あり) 4. Raymond Carver, "Fat"を読み解くー Ernest Hemingway, "Cat in the Rain"との間クスト性の観点から(査読あり)	単	2020年2月14日	Mukogawas Literary Review No.57(武庫川女子大学英文学会)	Raymond Carverの初期の短編小説"Fat"がErnest Hemingwayの短編小説の"Cat in the Rain"を変形したものであることを6つの観点から分析したものである。(pp.15-27)
5. 村上春樹「アイロンのある風景」を読むーJack London, Raymond Carverとの間テキスト性から(査読あり)	単	2014年2月28日	テキスト研究10号(電子版)、テキスト研究学会	村上の短編集『神の子供たちはみな踊る』の2番目に収録された短篇「アイロンのある風景」をJack Londonの短篇"To Build a Fire"およびRaymond Carverの短篇との間テキストという概念から分析し、村上の短篇が村上の文学において、大きな転換点になった作品であることを論じている。(pp.33-47)
6. Raymond Carver "Why Don't You Dance?" Beginners版を読み解くー第一段落における間テキスト性及び冠詞の使用例	単	2013年3月31日	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学)60	Raymond Carverの短篇"Why Don't You Dance?"の冒頭の部分をHemingwayの短篇"Cat in the Rain"との間テキスト性、および冠詞の使用という観点から分析し、Carverのオリジナルバージョンに込められた意図を、編集者Gordon Lishがどこまで理解していたかという問題を明らかにしている。(pp.33-40)
7. 小説Shaneと映画Shaneとの比較研究(査読あり)	単	2012年3月15日	Mukogawa Literary Review49	小説Shaneと映画Shaneとを比較し、作品の中心となるStarrett一家やShaneの人物造形や行動に大きな変化が加えられていることを明らかにし、その理由を、小説が執筆された1949年から映画の上映された1953年のアメリカを取り巻く国際状況の変化と関連付けた論文である。(pp.1-14)
8. ヘンリー・ジェイムズ『ねじのひねり』に関する一考察ーガヴァネスがグロース夫人に求める奇妙な一体感	単	2000年3月	Mukogawa Literary Review No.36	Henry Jamesの中篇『ねじのひねり』は謎の多い作品であり、さまざまな方法による解釈が試みられてきた。語り手のガヴァネスは作品の舞台であるブライにおいて、孤立した状況におかれ、情報の大半を女中頭のグロース夫人から得ており、夫人の果たす役割は非常に大きい。にもかかわらず、従来の研究では、夫人の言動を詳細に分析したものは見られない。本論は、ガヴァネスの夫人に対する過剰な一体感という、新たな見解を提示する。(pp.21-32)
9. Raymond Carver "The Compartment"を読み解く	単	1998年3月	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学)45巻	レイモンド・カーヴァーの短篇小説集Cathedral(1983)に収められた"The Compartment"をとりあげる。主人公マイヤーズが息子に対して用いる呼称の変化や、随所に用いられている描出話法に着目し、主人公は結末において息子に対する憎悪の念に駆られるとする従来の解釈を、根底から覆す読みを呈示している。(pp.31-37)
10. フィクションとしての「獣」ー「密林の獣」再考ー	単	1996年3月	武庫川女子大学紀要(人文・社会科学)44巻	従来この作品は、「獣」のメタファーで表現されているものは何かという観点から解釈されてきた。本論では「獣」を、主人公ジョン・マーチャーが自己の閉鎖的な世界を守るために生み出した。フィクションであると考え、さらに、彼のコンフィダントであるメイ・パートラムを、フィクションの聞き手/読み手と定義し、この作品を「獣」をめぐる解釈戦略の攻めぎあいとする、新解釈を呈示している。(pp.35-42)
11. 『デージー・ミラー』試論ーNovelとRomanceの相克ー	単	1993年03月	関西大学大学院英語英米文学研究会発行 P0IESIS20号	『デージー・ミラー』は、発表当時から現在に至るまで、ヘンリー・ジェイムズの最もポピュラーな作品であるにもかかわらず、英米及び我が国において、これを正面からとりあげた研究は、比較的少ないと考えられる。本論文は、ヴォルフガング・イーザーの受容理論を援用しつつ、視点的人物であるフレデリック・ウインターボーンは読者であり、かつ作者であり、ヒロインのデージー・ミラーは彼によって読み解かれ、書かれるテキストであるという観点から、作品を解明しようと試みている。(pp.69-84)
12. 「巨匠の教訓」における虚と実	単	1991年03月	千里山文学論集45号	ヘンリー・ジェイムズの短編"The Lesson of the Master"(1888)の視点的人物であるポール・オーヴァートに焦点をあて、この作品は悲喜劇としてとらえるべきであるとする新解釈を呈示し

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
13. 『使者たち』 試論 －マライア・ゴストリーを中心に－	単	1990年02月	POIESIS 18号	ている。(pp.63-78) 近代文学における重要なモチーフの一つ「頭」と「心」の乖離という観点から、『使者たち』に登場するマライア・ゴストリーという女性を分析。(pp.170-183)
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. Henry James、Ernest Hemingway、Raymond Carver、村上春樹という系譜	単	2022年3月12日	言語文化研究会	Henry James とRaymond Caverを結びつける存在としてErnest Hemingwayに注目し、クイアという観点から分析した。
2. 武庫川女子大学英文学会	単	2009年06月22日	武庫川女子大学英文学会	大学英語文化学科1系の説明及び現在の研究課題：1人称小説についての講演を行った。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 間テキストで読むRaymond Carverと村上春樹	単	2012年08月31日	テキスト研究会	Raymond Caverの "Where I'm Calling From"と村上春樹の「アイロンのある風景」を、Jack Londonの "To Build a Fire"との間テキストというテーマから論じた。(pp.33-47)
2. Raymond Carver, "Why Don't You Dance?" 考察—What We Talk About When We Talk About Love版とBeginners版との比較研究	単	2010年12月	日本英文学会関西支部	Raymond Caverの短編小説 "Why Don't You Dance?"をGordan Lishによる改訂が行われた版とCarverのオリジナル版との比較研究を行った。二つの版の異動を詳細に分析し、またErnest HemingwayやCarverの詩作品との間テキスト性を指摘し、新たな作品解釈を提示した。
3. Henry Jamesの文学における「頭」と「心」の乖離について	単	1991年11月	武庫川女子大学英文学会	「頭」と「心」との乖離という観点から、Henry Jamesの作品とOscar Wildeの長編小説『ドリアングレイの肖像』を比較検討したものの。
4. ヘンリー・ジェイムズの小説技法—『使者たち』を中心に—	単	1989年12月	関西大学英語英米文学研究会	『使者たち』を中心に、ヘンリー・ジェイムズの長編小説における視点と語り、コンフィダントの用い方と有機的に関連していることを論証したものの。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. (翻訳) ヘンリー・ジェイムズの作品における女性の分裂 Mukogawa Literary Review No.30		1993年	Mukogawa Literary Review	
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
1. 2021年4月15日現在 2. 2014年4月1日現在	日本ヘンリー・ジェイムズ協会 日本ペイター協会 言語文化研究会 武庫川女子大学英文学会 関西大学大学院英語英米文学研究会 日本アメリカ文学会 日本英文学会			